

文を以て一串テセオ文と爲す。平常數串を使用するときには、每百文、麻條を其方孔に貫き之を五個宛連ねて一條と爲し、更に二條を連結して一串文と爲す。

銀貨は兩リヤン外人は「テール」と稱すを以て稱す、制貨に非ずと雖も、廣く公私一般流通するが故に、各省の首府其他繁華の處には、私立の鑄造場あり、爐房と名け、公私の寄託に應じ銀兩を鑄造し、該爐房の印を刻す。其他各省の布政使及各官設銀行(官銀號)には、大抵爐房の設あり。

銀兩の種

凡そ銀兩に數種あり、大別して小鏢、中錠、元寶の三種とす、小鏢は一塊の量目五兩内外、其形饅頭の如し、其他碎銀と稱し、破碎せしもの有り、中錠は衡鐘の如き形にして其量目十兩内外とす、元寶は、其量目五十兩内外にして、其形馬蹄の如し。但し壹兩は我十匁にして、其十分の一を以て壹錢と爲し、錢の十分一を分と爲す。其所用の權衡も亦數種ありて、多少秤量の差あり、即ち庫平、關平、漕平、估平、市平の五種なり、其、庫、關、漕の三平は皆官定にして、庫、關は納稅用、漕平は民間用の標準平なり、估平、市平は賣買用の總稱なり。要するに政府一定の貨幣なきが故に、金銀の分析は單に其善惡の鑑定に依るものにして、甚だ困難なり、只開港場には、近來公估店なるもの